

ほいく八王子

一般社団法人 八王子市私立保育園協会

会報 No.137 令和元年10月号

令和元年8月22日に保育政策提言書を提出しました



令和元年 7月1日

八王子市長 石森 孝志 様

一般社団法人八王子市私立保育園協会
会長 宮崎 豊彦

令和元年度・令和2年度 八王子市保育政策提言書

八王子市私立保育園協会に対しまして、日頃よりご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

令和の時代の幕開けに、幼児教育・保育の無償化が始まります。八王子市では、長年の課題だった待機児童解消対策も功を奏し、平成30年度末には30人を下回ることが出来ました。これもひとえに市長が目指してきた『子育てしやすい街づくり』の成果だと思えます。

さて、八王子市も中核市になって4年目を迎えました。法人の許認可や集団指導、指導検査も八王子市が主体となって独自の歩みを進めようとする意気込みが伝わってまいります。一方、東京都からの保育に対する補助金については、様々な面で市独自の取り組みを求めら

れております。八王子市の財政が厳しい状況については、理解できますが、今こそ未来を担う子ども達へ資金を投入する重要性を感じます。

今、全国のいじめや自殺、虐待等の増加をみても、子ども達が育ちにくい社会である事は、歴然としています。その意味で、『あなたのみちを、あるけるまち。八王子』というブランドメッセージも裏を返せば、八王子市への郷土愛を育もうとする市の願いの表れだと考えております。そのスタートには、子ども達が安心して歩ける道作りの発想が必要であり、保育所の役割は益々大きくなるものと感じております。

八王子市では、基本計画「八王子ビジョン2022」や、児童福祉については、「第3次八王子市子ども育成計画」を進めておりますが、昨年度改訂になった保育所保育指針や幼稚園教育要領に加え、前段にも書きました幼児教育・保育の無償化や災害対策の強化など、保育園が中核になってやるべきことが多岐にわたっています。近年多くなっている虐待問題の対応があり、子ども中心だった保育から家庭とのつながりが重要視されるようになり保育所職員の負担も増えています。また、災害対策では、長期的には大規模災害における備蓄食料の確保や、乳幼児を育てる家庭の避難所としての機能を備えることも重要度が増しています。早急に対応しなければならないのが、お散歩等における不審者による危害を防ぐことや、交通事故の被害を受けないようにするなど、再点検や安全対策を強化する必要があります。八王子市では市長がいち早く交通事故対策に取り組んでくれたと聞いております。

八王子ビジョンを実効性のあるものに、また、喫緊の課題に早急な対応をするためにも、石森市長との懇談会や市議会議員との懇談会、行政との政策会議を行い、安心して子どもを産み育てることができ、子どもたちが健やかに成長できる環境作りをし、地域のコミュニティーを形成して豊かなまちづくりに寄与していきたいと考えております。

このたびの私どもの保育政策提言につきまして、保育の現状をさらにご理解いただき、ご検討くださいますようよろしくお願いいたします。

令和元年度 緊急提言事項

〔提言1〕 予算関連要望事項

1. 幼児教育・保育無償化に伴う給食費徴収について、負担軽減のためのサポートをお願いいたします。
2. 幼児教育・保育無償化に伴う事務量の増加に対応するために、事務職員の配置に対する加算をお願いいたします。

1. 幼児教育・保育無償化に伴う給食費徴収について、負担軽減のためのサポートをお願いいたします。

今年10月から始まる幼児教育・保育無償化に伴い開始される給食費の徴収については、都内の各市区町村財政状況によって、単独で補助できる自治体とできない自治体で地域間格差ができてしまう事が懸念されます。保育園はアレルギー児、貧困など家庭環境に課題がある児童の支援を

ずっと続けている福祉施設であり、給食は生活の要です。国では副食費の負担額を4,500円と示されていますが、それ以上かかる分については、財政状況に関わらず保育園が積極的に補助を行えるようなサポートをお願いいたします。

2. 幼児教育・保育無償化に伴う事務量の増加に対応するために、事務職員の配置に対する加算をお願いいたします。

今年10月から始まる幼児教育・保育無償化に伴い、給食費を各施設で徴収することとされていますが、これまで上乗せ徴収を行ってこなかった保育園にとっては、全く新しい事務作業となります。既に様々な事務処理も増加傾向にあり、無償化に対応するためには、専門の事務員が必要不可欠です。事務職員の配置に対する八王子市独自の加算の新設をお願いいたします。

〔提言2〕非予算関連要望事項

1. 幼児教育・保育無償化に伴う給食費の徴収等の周知について

幼児教育・保育の無償化は3歳児、4歳児、5歳児についてのことであり、給食費については保育園で徴収すること、また、保育所においては0歳児、1歳児、2歳児については従前と変わらないこと等、特に3～5歳児と0～2歳児の兄弟姉妹がいる保護者が混乱しないよう八王子市で対応していただけますようお願いいたします。

令和2年度 提言事項

〔提言1〕予算関連要望事項

1. 保育所職員の処遇改善について
2. 事務職員雇用費
3. 嘱託医料の増額
4. 年末保育補助の予算
5. 協会法人化に伴う運営費補助
6. 法人・施設の機能強化
7. 宿舍借り上げ支援事業継続の要望

1. 保育所職員の処遇改善について

①八王子独自の配置基準を更に充実して下さい。

八王子市は保育に対して非常に高い意識を持っており、4・5歳児の配置を国が決めている30：1から市独自に27：1という基準にさせていただきました。更には新制度の切り替え時においても、全国に先駆けいち早く3歳児を15：1にさせていただきました。これは八王子市の保育・子育てに対する意識の高さを示すものであり、私たちの子どもたちを大切にしたいという願いとも合致し

ており、社会貢献への意欲にも直結しているところです。是非ともこれからも都や国を動かすような町づくりをしていただきたいと思います。そのためにも、今保育園が抱えている問題についての本質をご理解いただき、子どもにとって更によりよい環境が提供できるようにしたいと考えています。

今でこそ保育士の処遇改善が叫ばれていますが、保育士不足や質の向上の根本的な対策には繋がっていません。その要因として考えられるのは、昭和23年に施行された最低基準を基に、保育士の労働を加配による仕組みでぎりぎりの状態で進んできた保育政策にあります。それは保育園には子どもの理解のために記録を書いたり、仲間と話しあったり、園内研修をしたりする時間が基本的にほとんど保障されていないからです。

次の表はその現実的ではない状況を示したものですが、子どもに対する保育士の人数が少ないと、どうしても保育が画一的になり、子どもたちを一度に動かす一斉保育が中心になり、保育士の指示で動く子どもを育てるという保育になってしまいます。これでは世界が今目指している質の高い幼児教育といわれる「主体的・対話的で深い学び」を実践することができません。

今後、八王子市として更に子育てを重要課題とした政策を目指すためにも、このような先駆的な取り組みの継続は保育の無償化や処遇改善等を国が進める中で、ますます独自性を求められると思います。子育てのしやすい街づくりに対して保育園、幼稚園そして認定子ども園等の活用については、今後、市独自の基本設計をもとに予算の確保がますます必要になってくると思います。そのため下記のような職員処遇の現状を理解して頂き、子どもに優しいまちづくりを共に進めていきたいと願っています。

	国	都	市	(実際の園での職員配置例)
0歳児	3対1	⇒	⇒	9人で3人+8時間パート1名
1歳児	6対1	⇒	5対1	12人で2人+8時間パート1名
2歳児	6対1	⇒	⇒	12人で2人+8時間パート1名
3歳児	20対1	⇒	15対1	15人で1人+8時間パート1名
4歳児	30対1	⇒	27対1	25人で1人+8時間パート1名
5歳児	30対1	⇒	27対1	25人で1人+8時間パート1名
	充実保育士2～3人+パート保育士			充実保育士2人

注) 現行配置は園によって多少のばらつきがあります。

②キャリアアップ研修への支援について

平成29年度より、キャリアアップに対する補助金を頂けることになりましたが、市としても、そのための加算が継続されるようお願いいたします。協会では平成30年度より東京都の認可を得てキャリアパス研修を始めました。これにより多くの保育士たちが八王子市で研修を受けることができました。これからも保育者等の処遇改善に対しては積極的に取り組み、魅力ある職場環境やその質の向上に取り組みたいと考えておりますが、そのためのキャリアアップ研修や園内のキャリアパスの構築に対してのご支援をお願いいたします。

2. 事務職員雇用費

請求事務の簡略化は徐々に進んできましたが、その確認のための時間や、報告書、申請書等の業務が必要になり、同じように時間がかかります。さらには子ども・子育て支援法に移行し、短時間利用者への対応や広域入所への対応、地域活動による窓口開設、各関係機関との連携、日々の金銭の管理等保育園の運営にかかわる事務量は増えこそすれ、減ることはありません。この先給食費の徴収が始まると、現状の事務体制では処理しきれません。そこで、国基準の事務職員雇上費に加え常勤の事務職員を配置できるよう、その経費補助を検討していただきたくお願いいたします。

3. 嘱託医料の増額

現在、市の嘱託医、歯科医手当は年間11万円を頂いておりますが、保育園で嘱託医、嘱託歯科医との契約改定に伴い、公立園の契約料金が基本にされるケースもあり、その料金が大幅に増額してきました。現在100人規模の園でも50万円を超える金額となっておりますが、今後定期健康診断、アレルギー児対応、事故対応、病気等の相談のことを考えると、ますますその連携は重要になってきます。ぜひこれらの連携がスムーズに行われるよう、その差額についての補填をお願いいたします。

4. 年末保育補助の予算

年末保育は公立保育園以外、私立保育園の中でも保護者の要望に応え、自主的に実施している園があります。東京都は保育内容によって補助金を上乘せする制度に変わってまいりました。八王子市も自助努力で年末保育をしている園に対しての補助をお願いいたします。

5. 協会法人化に伴う運営費補助

一般社団法人八王子市私立保育園協会は、会員園数の増加に伴い事務処理の軽減、研修の充実、会員園への利便性向上を図るため、平成29年11月20日より法人化いたしました。（会員園の承諾を受け、会費の増額も行いました。）つきましては、事務所の設置や事務職員の雇用等に対して、かなりの支出がございます。協会単独で運営を行うことも可能ですが、八王子市からの補助があることによって運営の透明化や会員園へのモチベーションが上がり、八王子市への協力体制が強固なものとなります。たとえば、医師会や学校、公立保育園、地域、保育団体等との連携が今以上に図れます。是非これらの事を踏まえ、新たな補助をお願いいたします。

6. 法人・施設の機能強化

東京都は、全国的に見ても補助費の額は多い地域ですが、建て替えやメンテナンス等のことを考えると決して豊かとはいえません。社会福祉法人改革に伴い、理事会・評議員会の役割はますます重要なものになっています。法人の機能強化やその運営費については市独自の補助金が非常に重要ですが、もう数十年も固定されたままです。ぜひ、現状をご理解いただき一層のご支援をいただけますようお願いいたします。

法人・施設の機能強化推進費

現 状 (20年以上固定)	要 望 額
月 額 8 0 0 円/人	月 額 1 , 0 0 0 円

法人運営費

現 状	要 望 額
月 額 2 , 5 0 0 円/園	月 額 5 , 0 0 0 円

7. 宿舍借り上げ支援事業継続の要望

八王子市においては、保育施設に勤務している保育士等の不足が問題になっている中、八王子市で保育士不足を解消できるよう、また、保育士が安心して働けるよう、今後も東京都と同様な宿舍借り上げ支援事業を継続していただけるよう要望いたします。

〔提言2〕非予算関連要望事項

1. 指定管理の公立保育園の民営化に関する要望
2. 各ブロックに最低一つの公立保育園設置を要望
3. 保健センター・地域子ども家庭支援センター・教育センター等との機能強化と連携会議
4. おむつ回収の要望

1. 指定管理の公立保育園の民営化に関する要望

一般社団法人八王子市私立保育園協会では、公立保育園の一部民営化については賛成をしていますが、運営者が変わるかもしれないという指定管理者制度では、保護者や子どもたちの不安が大きいため賛成しかねます。また、地域の中で信頼関係を築き、安定した保育をすることが保育園の使命です。このことから各法人が責任を持って運営できるような民設民営という形を切に要望いたします。

2. 各ブロックに最低一つの公立保育園設置を要望

現在、市の施設として八王子市子ども家庭支援センターが、市の中心となる八王子駅近くのクリエイトホール内に置かれ、また、市民のみなさんが身近なところで子育てについて相談できるよう市内を5ブロックに分け、地域子ども家庭支援センターが設置されています。この地域子ども家庭支援センターは虐待だけでなく、地域の子育てについての相談を受けたり、子育て情報の提供、子育て講座の開催、養育家庭への支援等を行っており、ますますその重要度は増すと思います。しかし、第4ブロックにおいては公立保育園が一か所も設置されていません。市の構想の中にも5ブロックで子育て支援をすすめるのでしたら、公立保育園の数を変えないかたちで、第4ブロックにも公立保育園を移設していただきますよう要望いたします。

3. 保健センター・地域子ども家庭支援センター・教育センター等との機能強化と連携会議

生後1歳未満の子どもを抱える保護者への子育て支援は、マタニティーブルーや虐待予防に大変大きな成果があるという報告があります。乳児への虐待死も増加の一途をたどっている現状や障がい児への支援、インクルーシブな社会の構築などを考えると、各専門機関の連携を強化し、裾野の広い支援をする必要があります。八王子市も妊娠期からの育児支援（ネウボラ）がスタートしました。これらを活かすためにも、保育園という資源を有効活用しながら、子育てをしやすい社会を構築するための子育て連携会議の設置をお願いいたします。

4. おむつ回収の要望

八王子市は紙おむつを使用している乳幼児、高齢者、障がい者に対していち早くおむつ専用袋を無償で配布するという支援に取り組んでおり、その意識の高さには敬服しております。園でも地域のオムツ袋の配布に対してはご協力をさせていただいておりますが、回収については費用面や回収の方法等で家庭ごみとして扱われるため、園から地域に出すことは出来ません。そのため、多くの園が各家庭に持ち帰っていただく方法をとっております。しかし、バスや電車など公共機関を利用する人、感染が心配な使用済みオムツの運搬、衛生面などを考えると、早急な対策が必要だと考えております。市区町村によってはいち早く対策を講じているという情報もあります。子育てに対しては意識の高い八王子市だけに、他市に先駆けていち早く園から直接回収業者へ渡せるような政策を提案いたします。



令和元年民踊流しを振り返って

～新たな元号にふさわしい再開～

八王子まつりの起源は1961年スタートの「3万人の夕涼み」から始まっている。山車も関東随一の夏祭りと呼ばれている。そして「民踊流し」である。約1.8kmに4,000人以上の参加者が集う。

ギネスへの挑戦や市制100周年を挟み順調に経過してきたが、昨年は高温・多湿の夏の異常気象により予期せぬ中止となった。練習を重ねてきた先生方の間で大きなため息が出る光景を目の当たりにした時、この「民踊流し」は園の行事のような存在であ

ると認識した。良い意味で周りからの刺激もあり練習時には姿鏡のチェックも余念無く、当日の笑顔も百点満点の出来であった。

見物の人から「市内の保育園の保育士さんに、こんな笑顔向けられては子ども達も笑顔になるね！」という一言は今年の民踊流しで一番印象残っている。中止を挟んで令和の元年に笑顔の再スタートが切れたことは民踊流しを振り返るうえでも特別なことであった。



編集後記

季節は秋めいてまいりましたが、一方、大きな台風が本土を直撃しました。被害にあわれた方々に対しては心よりお見舞い申し上げます。

この秋もう一つの熱気は、ラグビーワールドカップの日本開催と東京オリンピック2020に向けての代表選出の選考会が各種目で始まりました。暑い夏がまだまだ続いているようにも思えてきます。

代表に選出された方、惜しくも代表の選に漏れた方、「笑いあり」「涙あり」の場面に遭遇します。こんな場面を子ども達はどんな気持ちで観ているのでしょうか。テレビの前で一緒に泣いたり笑ったりしているのでしょうか。こうした体験を踏まえて記憶に刻まれる中、情緒を育む良い機会としての捉え方もあるような気がします。（梅野）